

令和 6 年度 稲沢市地域自立支援協議会 第 1 回こども部会 議事要旨

【日 時】 令和 6 年 6 月 6 日（木）午後 2 時～午後 3 時 45 分

【場 所】 稲沢市役所 東庁舎 1 階 第 8 会議室

【出席者】 こども部会委員 5 名 事務局 8 名

【欠席者】 こども部会委員 2 名

【議 事】

あいさつ（部会長）

1 協議事項

（1）医ケア児に関すること（医療的ケア児支援ネットワーク会議の開催）

- ・前回会議（2 月 19 日）について、事務局から報告（質疑無し）
- ・第 1 回医療的ケア児支援ネットワーク会議（6 月 26 日）に向けて
防災安全課にお話しいただく内容等について
- ・今後の予定 防災プロジェクト発信研修会（6 月 17 日）

第 4 回医療的ケア児に関するシンポジウム（3 月予定）

部会長 医療的ケア児支援ネットワーク会議で防災安全課のお話を聞いたあと、出席者に意見をいただくには人数が多いため、グループワークにしたかどうかを考えているが、何か案があれば聞きたい。

委員 A 保育園も福祉避難所に指定されているが、そもそも準備するものや仕組みを提言して、どこが取りまとめてくれるのか。福祉避難所としてどうしていくかが不明確。せっかく話しても話だけで終わってしまっは意味がない。

事務局 福祉避難所の担当は防災安全課になる。自立支援協議会としての意見は防災安全課に提言していく流れだと思われるが、障害福祉関係施設で 3 か所と福祉避難所の協定を結んでいるものの、何も決まっておらず、いま、災害が発生しても何もできないと聞いている。

部会長 イメージとしては、ネットワーク会議で出た意見をこの部会で検討し、さらに運営会議に上げていく。

委員 B 漠然としていて何を意見として挙げればいいのか分からない。

部会長 まずは現状を聞いて、知る。そこから、どう提言するか、何が必要かを話し深めていくことが第一歩。

委員 C せっかく話し合ってもそのゴールが見えないと、意見はまとまりにくいと思う。何も決まっていない状態で、現状を教えてもらってどう思いますかと言われても難しい。まだスタート段階だということも大事だが、色々な自治体の取り組みを、考える材料として紹介してはどうか。

委員 A 障害のあるかたは他にもあり、必要なのは医療的ケア児だけではない。それなのに医ケア児だけを取り上げるのかという思いもある。元があつて、医ケア児に更に何

を用意しようということなら話は分かるが、福祉避難所となると、誰が使うの？となったりして、何も分からない。

部会長 もともと、電源確保の不安から災害時になんてしようかという話になり、検討をすすめることになった。現状を知って、皆さんが思う課題を上げ、そこからどうするかということになると思う。色んなことが関わってくることではあるが、まずは第一歩として進めていければと思う。

(2)障害児等に係る療育システム等に関すること

1)関係機関の連携強化、意識統一等

- ・前回会議（12月7日）について
- ・インクルーシブ保育推進事業

部会長 始まって現状はどうか。

委員 A 公立も私立も動いている。私立に関しては園長先生はじめ、みなさんに、公立を見てもらうなどして関わりかたや環境の作りかたを一緒に勉強している。民間の先生がたも積極的に勉強会などに参加していただいている。一番混乱しているのが、今まで3対1で対応していた公立。担任1名で、難しいところだけ支援につくということをやっている。今、小学校にあがった子が崩れている。こういう説明をすると、分かっている先生は「小学校へ行ってこういうことが起こっているんだ」と気づき、その課題について練習ができる。支援が必要なお子さんにも自分で考えるとか、そういった力をどこかでつけないといけない。保育園の卒業がゴールではなく、その先で困っていることがわかっていれば、もっと先にゴールがあることも先生たちが理解してもらえる。まだ手探りだが、愛知県の発達障害者支援センターにも賛同していただき、勉強会も一生懸命やっている。

- ・不登校児の実態・かけはしプログラム

委員 A 主体的な保育をしていることで、座れなくなっているのではないかと思われているので、どんなふうに育てようとしているのかを見ていただけると、お互いに歩み寄れると思う。今年はモデル地域が5カ所。地域によって差があるので、どこでも最低限の連携が取れるようにしていきたい。

事務局 まずは顔を見合わせ、何でも話し合えらといい。

委員 A 全国的にこのプログラムが進んでいる。小学1年生の不登校も増えてきていると聞いており、子どもたちのために進めていきたい。

部会長 学校としては、このプログラムについてどうか。

委員 D 小学1年生に対して、学校ではゼロベースで教えるが、年長では色々なことができているように感じる。お互いに、どこまでできているのか理解し合うことは大切だと思う。保育園、幼稚園でここまでできているから、小学校はここからスタートしよう、ということができれば小学校も楽になる。

委員 A 小学校で保護者対応に悩まれる場合も、保育園からいい意味で繋げていくことができる。

委員 C 国も予防的アプローチということで力を入れている。不登校や非行など、問題が起きてからどうしようというのではなく、年齢が上がっていても、地域の支援が繋がっていれば、子どもも親も安心だと思う。

2)稲沢市サポートブックについて

・活用促進について

委員 D 特別支援学級在籍の保護者が持っている印象だが、あまり活用されていないように感じる。サポートブックに、学校で作成した個別支援計画を綴じたり、入学前に保護者のかたが持ってこられることもある。学校のほうからサポートブックをお持ちかどうか聞くことはあまりない。

委員 A 保育園では、今までは加配保育の場合は必ずサポートブックを持つことになっていた。今後は、先生同士、皆で支援を考えることになる。なるべく複雑にならないよう、サポートブックの様式を使った用紙に、保育園での情報を書いて保護者に渡し、サポートブックに挟んでもらう。保護者には、サポートブックを学校にもっていくといいよ、と話すが、渡すタイミングが分からず難しい。支援者がやってきた支援が伝わるツールとして考えていけばよいと思う。

(3)児童発達支援センターに関すること

委員 A なのはなとのすみ分けが難しい。利用者も混乱するのではないか。

事務局 基本的に、福祉サービスと子育て相談で大きな違いがあり、子育て支援センターで気をつけていきたいのは、巡回事業は支援者に対しての支援を中心に、保育所等訪問支援はお子さんに対しての支援ということで、そこはしっかりすみ分けをしていかなければいけないと感じている。事業所を利用している保育園のお子さんが非常に多いため、事業所とも連携して一緒に勉強会をしていこうとしたが、企画はしたもの実際、実現するのは難しい。子育て支援センターでは保育士や学校の先生の支援を、児童発達支援センターでは事業所をというところで、いずれ一緒に何かやれるといい。

部会長 スーパーバイズ・コンサルテーション機能のところを、なのはなでも担おうとしたが、難しさを感じ、この児童発達支援センターで、事業所への支援を担うことができれば、すみ分けが、より明確化するということか。(はい)

委員 A 療育支援事業という県の事業があり、事例検討を行っているが、その中で事業所を利用している保育園児のケースが挙げれば、事業所にも、その事例検討を見学等してもらいなど少し間口を広げている。

部会長 療育支援事業は県の委託で行っているのか。

委員 A 現在、発達障害支援指導者や保育課が分担し、通常業務以外で行っているが、児童発達支援センターがその仕事を担っていただければいいと思う。

- 部会長 なのはなだけでなく、療育支援事業とのすみ分けも必要。
- 委員 C 稲沢市では保育所等訪問支援はどのくらいの実績があるのか。
- 事務局 事業所としてあるのは、ひまわり園のみ。令和4年度実績は7人。
- 委員 B 保育所等訪問支援と療育支援事業はうまく機能しているのか。保育所等訪問支援が始まった当初、使いにくいという課題があった。もともとあった療育支援事業が巡回で、地域や現場の困りごとに寄り添っていた事業であったので、稲沢市は保育所等訪問支援を利用されているのかと疑問だった。保護者の申し出があって使う事業なので、支援が必要なタイプの子は保育所等訪問支援でサポートできるが、診断や手帳はないが支援があれば伸びる子は療育支援事業のほうが使いやすいと思う。事業を明確にすみ分ける必要があるのか、それは地域にどういった社会資源があるのかによって、センターの中核的役割や、新しくできるセンターの担う役割等で変わってくると思う。カバーできていないところにセンターが溝を埋めるような、制度と制度の狭間にいる子や支援が行き届いていない子など、そういうニーズも拾えてセンターが役割を広げていけると、市全体として一歩前進すると思う。
- 部会長 すみ分けをはっきりしてくると、狭間が見えてくるので、そこをまたどう取り組んでいくか、考えていけるといい。
- 委員 D 特別支援学級の先生がたにとっては、この児童発達支援センターには期待があり、対象児童の入学の際に、情報が欲しいという話は聞くので、情報共有できればと思う。
- 委員 B インクルーシブ保育の話など全般を通して、10数年前にはなかった事業ができ、どんどん良くなっていると感じられた。子どもが小さい頃から繋げていこうという変化も目の当たりに感じられ、ありがたいと思う。